

小さな手袋と大きな靴下

「おとうさん てぶくろがわらっとるよお」

と、突然娘が言い、右手を私に差出してきました。

見ると、赤い小さな手袋の、親指と人差指の付け根のところの糸が少しほつれて小さな穴があいていました。

娘は、指をぱくぱくさせて

「ほらあ あはは」

「ほんまじゃ、笑っとるねえ」

と私。

それじゃあと私も靴下を見せて、親指のところにあいた穴をもごもごさせて、

「ほれ うわはっはっ」

「おとうさんのはおおわらいじゃね」と娘。

ちいさな手袋がちいちゃく「あはは」、

大きな靴下が大声で「うわっはっはっ」

娘と顔を見合わせて「あはは」「うわっはっはっ」。

日曜日の昼さがり、外は雪景色、街のきーんと張り詰めた空気が、ほんのちよっとだけ緩みました。

(広島県教育委員会ホームページ「子どもたちに伝えたい『心に響くちょっといいはなし』より)